

# 令和3年度 学校自己評価システムシート (大妻嵐山中学校・高等学校)

目指す学校像	<p>○建学の精神「学芸を修めて人類のために」を実現する学校          自らを学問的・人間的に鍛え、己の使命を果たし人類に貢献する女性を育成する学校          ○学祖大妻コタカ先生の教育理念に基づき、人格の陶冶をめざす学校          自らを厳しく律し、他を思いやる生徒、広い教養と高い志を持つ生徒を育成する学校</p>	<p>※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価委員会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。</p>	出席者 学校評価委員 5名 (第三者評価委員 2名) (学校関係者評価委員 3名) 事務局(教職員) 5名
重点目標	<p>1 未来を生き抜く「探究する力」を育成する          2 未来を生き抜く「表現する力」を育成する          3 未来を生き抜く「感じる力」を育成する          4 未来を生き抜く「自ら学ぶ力」を育成する          5 組織的な広報活動を展開し、入学者を確保する</p>	<p>達成度          A ほぼ達成 (80%以上)          B 概ね達成 (60%以上)          C 変化の兆し (40%以上)          D 不十分 (40%以下)</p>	

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する)は複数設定可。 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設け ※達成度は、方策の評価指標に対する評価。

学 校 自 己 評 価					学 校 関 係 者 ・ 第 三 者 評 価	
年 度 目 標					実 施 日 令 和 4 年 3 月 1 2 日	
番 号	現 状 と 課 題	評 価 項 目	具 体 的 方 策	方 策 の 評 価 指 標	年 度 評 価	
					評 価 項 目 の 達 成 状 況	
					次 年 度 へ の 課 題 と 改 善 策	
1	<p>「探究する力」の育成については、各学年において「国際文化研究」や「総合学習」等で取り組んでいるものの、学年裁量が大きく、よく言えば学年の特性に基づいた独自性及び特色を打ち出せるのであるが、悪い言い方をすれば学年へ丸投げの状態ともいえる。今後は、修学旅行の事前学習等とリンクさせるなど「探究」として各学年における情報の共有など連携を深めて取組を系統化・体系化して授業効果を高める。</p> <p>教員研修では、オンライン型の「アクティブラーナー」を導入しコロナ禍での研修機会を確保してきたが、活用状況から見ると研修参加に偏りが見られた。また、特別支援や教育相談など生徒指導及び生徒理解に係る研修機会はなく、バランスを欠いてしまった。実態を踏まえたテーマを定め、組織的な授業研究と授業評価及び研修プログラムが必要である。</p> <p>「表現する力」は、グローバルな世界に欠かせない力。昨年度は、コロナ禍の中で国際交流事業及び海外語学研修については、すべて中止もしくは延期となっており、今後は、コロナ禍でも出来る交流事業や語学研修等のプログラムを構築して提供することでグローバルな視点と視野をいかに育んでいくかが求められている。</p> <p>以上のことから、次の課題に取り組む          ①探究プログラムの策定・実践 ②教員研修の充実 ③グローバル教育の推進</p>	探究プログラムの推進 教員研修の充実 グローバル教育の推進	<p>○探究プログラムの推進 -新設された国際文化・探究委員会が各学年での取り組みを系統化・体系化して今後の具体的な事例として共有する -各学年での取り組み状況を踏まえて嵐山としての探究学習の柱を策定する -修学旅行の特性を生かした探究プログラムを策定し、事前学習とリンクさせた学年プログラムを策定する ○教員研修の充実 -実情に応じた教員研修の年間計画を策定して研修効率を高める -授業研究については、カリキ委員会を中心として研修テーマを設定して取り組む -進路指導等については、進路指導部より情報提供を行い、必要に応じてベネッセ等による研修機会を設定する -特別な配慮を必要とする指導や生徒理解等に関する研修会を実施する ○グローバル教育の推進 -グローバルリクス事業の推進…グローバル意識の啓発事業に取り組み -語学研修やタム留学及び国際交流等については感染症の実情を踏まえてコロナ禍でも出来るプログラムを実施する -TGG、イングリッシュスタディ、イングリッシュキャンプ及び英検受験などの事業を通して語学力の向上に努める</p>	<p>○探究プログラムの推進 -国際文化・探究の具体的な取組を全体に周知することができたか -嵐山としての探究学習の柱を策定し、共通理解を図ることができたか -修学旅行での事前学習等とリンクした探究プログラムを策定し、共通理解を図ることができたか ○教員研修の充実 -教員研修計画を策定し計画的に実施できたか -明確な研修テーマを示し、有効な授業研究を実施できたか -外部の進路情報機関と連携を図り、進路状況及び必要に応じた研修機会を提供できたか -実情を踏まえた教員研修を実施することができたか ○グローバル教育の推進 -グローバルリクス事業等を通じてグローバル意識の啓発につながったか -コロナ禍での語学研修や国際交流のプログラムを企画、実施できたか -語学力向上に向けた各種行事や取組を通して語学力の向上は図られたか</p>	<p>○探究プログラムの推進 -国際文化及び探究について特別委員会を設け、年間授業計画の策定に取り組んだ。 -本校が目指す「四つの力」の育成を柱とした探究プログラムのフレームワークを策定し、教務部を中心に具体的な年間計画の作成に取り組んでいる。 -新型コロナ感染症拡大により修学旅行が中止となり探究として直接的にリンクしたプログラムは実施できなかった ○教員研修の実施 -初任者研修については、研修計画に基づいて実施することができた。校内研修では、服務的側面として「教職員不祥事防止」指導の側面として「教育相談・特別な支援を必要とする生徒への指導」を細目研修として実施することができた。 -授業研究においては、「授業評価アンケート」を実施し、課題及び今後の工夫改善についての提言を行った。また、今年度より導入した「指導教員による授業観察」1年間3回の授業観察及び授業フィードバックを行うことで、教員個々の授業課題と改善に向けたアドバイスを授業改善及び授業力向上につなげることができた。 -ベネッセによる教員や保護者を対象とした情報提供や進路説明会を実施した。 ○グローバル教育の推進 -グローバルリクス事業は通常通り実施できたが、今年度もコロナの中で各種国際交流がすべて中止となった。一方、国際理解コーナーにモニターを設置し、動画等の放映を通じて意識啓発に取り組んだ -中学においては、イングリッシュキャンプ、フレイッシュアップへの英語合宿、イングリッシュエスタバルのグローバル行事をいづれも実施することができ、グローバル意識の向上及び語学力向上につなげることができた。 -高校では、オーストラリア研修に申し込んでいた生徒を対象に姉妹校とのハイランド交流を実施することができた。内容的には初めてのことであり、華やかな交流の域を出なかった。</p>	別紙参照
3	<p>大妻精神の涵養は、建学の精神に拠るところでもあり、現在中学で実施している礼法指導等心を鍛え、感性を磨く「心の教育」を高校においても実施し、生徒も含めた学校全体に広げて「心の教育」を大妻嵐山における精神的支柱としなければならない。</p> <p>自立的活動では、昨年度オンライン文化祭など生徒を中心にコロナ禍の中において創意工夫を凝らしてイベントを実施してきた。今後は、IPAD使用ルールの見直し、サブバグの自由化など学校生活から日常に及ぶ自律的な態度や姿勢の醸成に向けて活動の工夫と改善が必要である。</p> <p>コミュニケーション力の低下が原因と考えられる友人間トラブルも少なくなく、今後とも社会人としての基礎的な人際関係を高めるためコンシューマースキルの向上に向けたプログラムの構築に力を入れて計画的に実施していかなければならない。一方、職員においては特別な配慮を必要とする生徒への理解や支援に向けて力を身につけることが必要である。</p> <p>以上のことから、次の課題に取り組む          ①大妻精神の涵養 ②自立的活動の活性化 ③社会人基礎力の向上</p>	大妻精神の涵養 自立的活動の活性化 社会人基礎力の向上	<p>○大妻精神の涵養 -中学で実施している礼法指導など「心」を鍛え、感性を磨く「教育」を高校において実施する -「大妻精神」の育成をめざしたプログラムを策定する -多様な経験ができる機会を提供する ○自立的活動の活性化 -コロナ禍においても各種生徒会行事を工夫改善して実施する -あひつや身だしなみなど自律的な姿勢や態度を醸成する取組を実施する -各種ボランティア活動の活性化を図る ○社会人基礎力の向上 -ソーシャルスキルの醸成に向けたプログラムを策定し、実施する -授業におけるグループ活動を充実させる…AI授業の工夫改善 -探究活動を推進する</p>	<p>○大妻精神の涵養 -高校において大妻精神につながる「心の教育」を実施することができたか -嵐山独自の「心の教育プログラム」を策定することができたか ○自立的活動の活性化 -コロナ禍の状況に応じた各種生徒会行事を実施できたか -自律的な態度や姿勢の育成に向けた多様な教育活動を実施できたか -ボランティア活動への参加人数が増えたか ○社会人基礎力の向上 -ソーシャルスキルの醸成に向けた指導プログラムを策定・実施できたか -コミュニケーションスキルの向上が図られたか -授業の教育活動としてAIの手法を取り入れたか</p>	<p>○大妻精神の涵養 -嵐山独自の心の教育プログラムは、今年度計画に着手することができたものの実施することはできなかった。 -学年の集会等における講話を通じて「心の育成」にむけた取り組みを行った。 ○自立的活動の活性化 -コロナ禍で多くの制約を受けつつも生徒会を中心に行事への工夫改良を重ね、体育祭と大妻祭を実施することができた。また、サブバグの自由化やスタックス導入など生徒会を中心として自立的活動が活発となってきている -ボランティアについては、参加生徒数は公式で32名。昨年を大きく上回り、特に嵐山町の街おこしの社会活動(歴史博物館や交流センター等)への参加が顕著であった ○社会人基礎力の向上 -コロナ禍での密を防ぐためにグループ活動等への力を入れることができなかった。 -ソーシャルスキルの醸成に向けたプログラムについては策定・実施できなかったものの、次年度からの探究プログラムへの導入を目指している -「探究」については、「進路探究ナビ」(ベネッセ)をテキストとして使用してキャリアを中心とした探究活動に取り組む、進路意識の高揚につながった</p>	別紙参照
4	<p>学習時間及び学力の二極化については、コロナ禍の中でさらに広がりをみせている。スタディサプリなどのツールを活用する一方で、Classi等を通じて今までの生徒との日常的な双方向のやり取りの機会を多くし、教員⇄生徒間のルーティン形成していくことで生徒の学習意欲を喚起すること及びコロナ禍の中でも出来るオンラインツール等を利用したキャリア教育などを通して高い志を育成していくことが必要である。</p> <p>進路については概ね生徒一人ひとりの進路希望の実現は図られているものの、産院大学への進学実績は現状として健闘してはいないものの上しては、進路実現を果したためにも進路実績を高めることにフォーカスしていく必要がある。</p> <p>以上のことから、次の課題に取り組む          ①進路実績の向上 ②自学力の向上</p>	進路実績の向上 自学力の向上	<p>○進路実績の向上 -各種ツールを活用して生徒との日常的な双方向のやり取りの機会を多くする -生徒進路カルテに基づき個別指導プランを策定する -進路ケーススタディを定期的に実施する ○自学力の向上 -学習へのモチベーション向上へ -系統的なキャリアガイダンス計画を策定する -大学との連携事業を拡大、実施する -将来を見据え、社会とつながる事業を実施する</p>	<p>○進路実績の向上 -クラス等での活用状況が改善されたか -生徒進路カルテに基づいた個別指導プランが有効に機能したか -進路ケーススタディが計画的に実施できたか ○自学力の向上 -6年間、3年間を通したキャリア計画が策定できたか -高大連携事業が企画実施できたか -社会とのつながり事業が企画実施できたか</p>	<p>○進路実績の向上 -クラスやロイヤルノートの活用状況については、浸透定着が進んでいるものの、教員と生徒のルーティンによる生徒の学習効果向上については、具体的な成果としては至っていない -SS委員会による進路ケーススタディとしての学力調査や志望校後援会議を定期的に実施することで、個々に対する手厚い進路サポートに取り組んできた -共通テスト及び一般入試の受験者は昨年を上回る人数となったものの、多様な進路方式に対応して上智やMARCHへの進学を決めるなど進路実績を上げている ○自学力の向上 -学校評価アンケートの結果から高校で70%、中学で80%をこえる生徒が家庭学習、自主的な学習時間を増やしたと回答し、自学力において一定の成果が出ていると見える。 -高大連携事業では、研究室訪問がコロナ禍の中で中止するなど当初の予定通りがなかったものの、大学出前授業を実施するなど状況に応じた取り組みを進めることができた。 -「探究」の時間を活用してキャリアガイダンスに取り組んでいる。高1では「進路探究ナビ」をテキストとして計画的なキャリア学習に取り組んでいる -社会とのつながり事業については、コロナ禍の中で訪問見学事業を実施することができなかった。その一方で生徒の自発的なボランティア活動に活用が見られ、大使館訪問などもスポーツ的に実施した。</p>	別紙参照
5	<p>昨年度は、情報発信のツールとしてLINEやYou Tubeなどを活用して多面的に情報発信力の強化に努めた。今後は、その内容を充実させるために学校のホームページ(学校方針・私学としての学校特性等)をより一層明確に発信していかなければならない。</p> <p>中学入試においては当初の目標をクリアするとともに「まなび力入試」も倍率1.1倍し、学力底辺層を取り込みたいとの第1歩も踏み出すことができた。今年度の入試分析を的確に行い、次年度入試ではさらなる入学者数及び多くの出願者数の確保を目指す。</p> <p>高校入試においては、単願受験生(入学者)80名は近年において非常に多い数となったが、併願受験生の戻りは個別相談件数からみると予想数値より低いものであった。近隣県立高校の低倍率からすると今後も併願の戻りは期待できない。いかに単願者数を増やしていくかが入学生定員確保の鍵となる。その一方で、進路から単願確約を受ける受験生は、今後増えていくことも想定されるため、単願者の引き留め策など学校としての魅力により一層受験生に提示していかなければならない。</p> <p>以上のことから、次の課題に取り組む          ①入学定員の確保 ②出願者数の増加</p>	入学定員の確保 出願者数の増加	<p>○出願者数の増加 ○入学定員の確保 -中学入試では入学定員を充たすには出願者を増やすことと考え、出願者を増やす具体策を重点的に実施する。高校入試では、周辺公立高校の低倍率を考えると併願の戻りが期待できないため、単願者を増やすことが入学定員を充たすことにつながるかと考え、単願者を増やし、単願者の入学率を高める具体策を重点的に実施する -中学、高校とともに大妻嵐山としての教育の質を高め魅力ある学校づくりを進める -多様なツールを利用して情報発信を行う -大妻奨学入試を実施する…大妻中学校との協力関係を構築し、大妻奨学入試の取組みを行う -個別相談の工夫改善を行う…推薦基準、実施時期、推薦条件等 -単願、併願確約後に嵐山としての準備教育を実施する</p>	<p>○出願者数の増加 ○入学定員の確保 -魅力を高める具体的な事業が実施できたか -情報発信のための工夫が行われたか -中学新入試による出願者は増加したか -個別相談の工夫改善によって単願者が増えたか -単願者の入学率が高まったか</p>	<p>《中学入試》中学入試出願者の増加については、「大妻奨学入試」を新設し、主に日能研本部との連携を図った。その結果、全体を通じて日能研からの出願者は大幅に増えるとともに、一般第一回の出願者も大幅に増えたことからも出願者の増加については一定の成果があったといえる。 また、定員確保対策として「まなび力入試」を新設した。出願者は前年度とほぼほぼ同等であったが、試験の結果から判断すると全体的に学力が高まることにも、特技を持つ受験生を少ない人数ながらも確保することができた。今後は、さらに周知を図り定員確保を図りたい。 《高校入試》単願者を増やす取組として平日の個別相談や前年度より一か月前倒しなど個別相談の機会を増やしてきたが、着しい成果を上げることができなかった。また、緊急対策として地域推薦の対象地域を拡大して管理職による中学校訪問を実施したが、時期明にも選考されたことのみが学校の感動は良かったものの具体的な成果を上げることができなかった。 -単願者の出願率を高めるために「特別推薦」を2回設定するとともに、推薦資格証を新たに発行することで昨年度に比べ出願率は大きく向上し、一定の成果を上げることができた。しかしながら、単願者の絶対数が減少してしまっていることは、今年度生徒募集の大きな課題であり、次年度に向けて単願者数を上げていく有効な方策を実施していかなければならない。 -情報発信については、イベントに合わせたチラシの作成及び配布について配布対象地域を大幅に拡大しイベントへの申込者数を増やすことができた。また、いくつかのテーマごとに動画の作成及び配信を行うなど情報発信については量的拡大と質的充実に取り組んだ。その一方で、学校の教育活動においてはコロナ禍のことも魅力ある事業として実施発信していくことが望まれた。</p>	別紙参照

別紙 令和3年度 学校自己評価システムシート（大妻嵐山中学校・高等学校）

目指す学校像	○建学の精神「学芸を修めて人類のために」を実現する学校 自らを学問的・人間的に鍛え、己の使命を果たし人類に貢献する女性を育成する学校 ○学祖大妻コタカ先生の教育理念に基づき、人格の陶冶をめざす学校 自らを厳しく律し、他を思いやる生徒、広い教養と高い志を持つ生徒を育成する学校	出席者 学校評価委員 5名 （第三者評価委員 2名） （学校関係者評価委員 3名） 事務局（教職員）5名	
重点目標	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="338 264 1367 397">                     1 未来を生き抜く「探究する力」を育成する                      2 未来を生き抜く「表現する力」を育成する                      3 未来を生き抜く「感じる力」を育成する                      4 未来を生き抜く「自ら学ぶ力」を育成する                      5 組織的な広報活動を展開し、入学者を確保する                 </td> <td data-bbox="1367 264 1694 397">                     達成度                      A ほぼ達成（80%以上）                      B 概ね達成（60%以上）                      C 変化の兆し（40%以上）                      D 不十分（40%以下）                 </td> </tr> </table>		1 未来を生き抜く「探究する力」を育成する 2 未来を生き抜く「表現する力」を育成する 3 未来を生き抜く「感じる力」を育成する 4 未来を生き抜く「自ら学ぶ力」を育成する 5 組織的な広報活動を展開し、入学者を確保する
1 未来を生き抜く「探究する力」を育成する 2 未来を生き抜く「表現する力」を育成する 3 未来を生き抜く「感じる力」を育成する 4 未来を生き抜く「自ら学ぶ力」を育成する 5 組織的な広報活動を展開し、入学者を確保する	達成度 A ほぼ達成（80%以上） B 概ね達成（60%以上） C 変化の兆し（40%以上） D 不十分（40%以下）		

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する）は複数設定可。

※ 達成度は、方策の評価指標に対する評価。

学校関係者・第三者評価

実施日 令和4年3月12日

番号	学校関係者及び第三者評価者からの意見・要望・評価等
1	<p>・概ね達成できていると思われる。</p> <p>《探究プログラムの推進》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍の中で、プログラムが十分図れなかったことは残念である。コロナ感染は完全には収束しないだろうが、これを踏まえ、次年度以降、前進した活動を期待している。</li> <li>・現状と課題にある学年の特性に独自性及び特色を共有するための統一的なプログラムの具体的な施策の提案が欲しい。</li> </ul> <p>《教員研修の充実》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修が計画に沿って実施できたことがうかがえる。大妻中学・高校を担うといった気概を持つ教員の育成も望まれます。一校だけの世界では、教員の視野が狭くなる危険もある。付属校同士の人事交流も可能ならば必要ではないか。</li> <li>・授業評価アンケートにおいても高い評価が得られていますが、自身の高校時代を振り返っても熱心で分かりやすい先生が多かったです</li> <li>・研修会を実施した、以上。というように受け止められる。実施したことによる成果を述べていただきたい。</li> <li>・「授業の工夫改善」というアンケートが、中学83.3%で高校64.7%であった。次年度に向けて改善を期待する。</li> <li>・教員力の向上は、教員間の研修が必修。また客観的な評価は大きく参考となるので、学生・生徒と保護者の授業参観等からのアンケートなどによる意見を聞くことは必要。</li> </ul> <p>《グローバル教育の推進》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍の中で、教育の推進は困難があったと思います。語学教育の推進は勿論ですが、今、世界で起きている国際情勢を正しく認識させ、日本人としての立場と役割・使命を正しく理解させることも人類に貢献する女性を育成する観点から極めて大切。</li> <li>・グローバル教育については、コロナ禍でも遠くにいる人をつなぐことのできるツールを有効活用し、可能な範囲で国際的な交流が実施できれば良いのではないかと</li> <li>・コロナ禍にあっても次につなげるべく創意工夫が見られた点は高評価である。</li> <li>・評価項目の達成・状況は、コロナ禍で中止となったプログラムもあるが、計画に基づいて実施されている。今後は課題と改善策に書かれているように取り組んでいただきたい。</li> </ul>
3	<p>・概ね達成できていると思われる。</p> <p>《自主的活動の活性化》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サブバックの自由化、スラックスの導入に向けた取り組みに心強く感じた。自分は社会を構成する一員であり、社会をよりよく変えるために働きかけるのも自分たち自身だということを、学校という小さな社会で経験できたことは大きな財産である。</li> <li>・ボランティア活動について、特に嵐山町の街おこしの社会活動に参加することは、自主性や社会性の向上はもちろん、町内における大妻嵐山のPRにもつながり、これからも積極的に参加してほしい。</li> <li>・探究活動、ボランティア活動、生徒会活動はこれが育成できる特別な領域。この領域の充実も図れればと思います。埼玉県では、特にボランティアでは共助社会づくり課を設置し推進している。</li> <li>・生徒たちの自主的な活動を学校として支援されていることを高く評価する</li> <li>・ボランティア活動や嵐山町との連携も図られている。また、地元企業である太陽ホールディングスとも連携をとるということで素晴らしい取り組みだと思ふ。</li> <li>・自主的活動の活性化は、ボランティアについては、参加生徒数が昨年を大きく上回ったことは素晴らしいことと思います。今後も社会体験事業を推奨して多くの体験機会を提供していただきたいと思ふ。</li> <li>・生徒の将来を直接考えさせる観点から、ボランティア等は大切。社会に出たら何をやるかあまり難しく考えることなく興味を持つ職業等にインターンシップをすることも一考である。</li> </ul> <p>《大妻精神の涵養 社会人基礎力の向上》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まず登校することが楽しくなるような取り組みが必要である。基本的な笑顔であいさつすることを教職員が温度差をなくしての実践を切望する</li> <li>・大妻精神の浸透も併せ、生徒間のトラブルもなく、理想的な教育が行われている様子がうかがえる。素直で家庭環境にも恵まれた素晴らしい生徒集団である</li> <li>・精神的に問題のある生徒にも手厚い指導のできる体制が整っている。この領域での教職員間の指導の共通理解をさらに図る研修も大切と思ふ。</li> <li>・学力の向上に時間が費やされる中で、心の育成は、後回しになることが多く、なかなか進まないのが現状であるが、学校全体で総合的にとらえ、すべての教育活動で育んでほしい。また、生徒の個性を伸ばせる領域でもある。</li> <li>・社会人基礎力の向上についてはプログラムの公開を望む</li> <li>・大妻精神の育成を目指した心の教育プログラムは、今年度着手した計画を今後実施していただきたい。</li> <li>・私学は学祖の教育理念から創立されていることから、伝授に専念すべき、その中で大学までは一貫した教育方針であることを意味付けて、大学に進学させることを指導するのもいい。</li> </ul>
4	<p>入試改革や社会情勢の影響もあり安全志向が強いのかと思いますが、同じ名前の学部でも、レベルの高い大学であるほど周囲から受ける刺激的で、学びの中身も進路の選択肢も多彩である。受験に限った話ではないが、志は高く、結果にはプライドを持ってほしい。はじめに時間の確保を習慣化して、次に質を高めるにはどうしたらいいか考えると良い</p> <p>《進路実績の向上・自学力の向上等》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一般入試と推薦入試を問わず合格できそうだから等の理由で大学を決めてしまうケースも多いのではないだろうか。学校としては数字を狙いたいところであるが、本人がじっくり受験と向き合うためにも、早めのスタートと興味を持った学校を調べる機会をたくさん与えてほしいと願う。このように取り組むことによって自ずと自学力も向上していく。</li> <li>・進路実績の数字が高校進学に与える影響は大きく、指導は大変であると思ふ。きめの細かい指導をされていることがうかがえます。</li> <li>・大妻大学への進学者の増加と多様な進路選択の指導も相反するところがありますが、全体のモチベーションを上げる意味でも、将来を見据えた進路指導のさらなる充実を期待。</li> <li>・自学力の向上が数字の上でも見えることは、学校の指導の賜物と思ふ。・自学力の向上、とても参考になりました。</li> <li>・サイエンス発表会など、中学生から、身近なオオムラサキから、普段の生活の疑問点など、仮説を設定し、実験する。わかったことを発表する。この訓練が、岸さんの全国2位の結果になっていると思ふ。岸さん本人の賞も知れませんが、学校の取り組みでつかみ取った受賞と思ふ。パワーポイントを使いこなし、発表や受け答えするコミュニケーション能力、自ら学ぶ力の育成を、学校全体でできていると感じました。</li> <li>・自学力の向上について、家庭学習、自主的な学習時間が増えて一定の成果が出ていることは評価できると思ふ。</li> <li>・生徒は卒業生を参考にするとするが、自分の目で見て体験することが大切。学校訪問、学内説明会(業者説明会)等は積極的に実践することが学生にいい。大妻大学を見せることは当然だが、その上を目指すことは高校のレベルアップにつながる。</li> </ul>
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学入試における大妻奨学生入試やまなびカエキスパート入試、高校入試における特別講座など出願数増・入学者確保に向けた取組の成果について知ることができた。大妻嵐山らしさ、ならでの魅力とともに周知して欲しい。</li> </ul> <p>《入学定員の確保・出願者数の増加》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・数年前と比較すると努力の跡が大いに見られ、成果を上げている。・様々な工夫を凝らした取り組みの中で少し時間はかかるが、増加につながるものと確信している</li> <li>・追加の取り組みとして徹底した「大妻らしさ」(※来校者への「ごきげんよう」のあいさつなど)を展開していくことで受験生や保護者の心を掴むことにつながるのではないかと</li> <li>・最も学校経営上の重要な領域ですが、評価委員の立場からは、校長先生をはじめ先生方のご努力の姿から申し上げることはできません。</li> <li>・教職員に自分の子どもを進学させるとした立場から現状を考えさせる「振り返り」も大切かと思ふ。</li> <li>・入試広報イベントの資料から、大変なスケジュールの上に広報活動が行われていることがうかがえます。さらなるオープンスクールの充実や動画YouTubeの充実を期待するところですが。</li> <li>・概ね達成かと思ふ。・資料P9の学校評価アンケートの学校満足度の保護者・生徒の結果など、入学資料に載せてみては？？？。保護者は、現場の声を参考にするため、インターネットの口コミで情報を集めるので、こんな情報も公開すると良いのでは、また、自分の学校経営に参考にさせていただきます。</li> <li>・資料P13の外部イベント参加実績に、各小中学校への進路説明会への参加や、中学校の生徒の受け入れ（上級学校訪問の受け入れ）等も、含んでも良いのでは…。R3ですと、7月に玉ノ岡中学校の中3生と保護者対象にも、榎本教頭先生にご講演をいただいています。また、コロナ禍で中止にはなりましたが、9月当初に、井上校長先生による、中学二年生の生徒対象の高校調等も計画途中でございました。</li> <li>・入学定員の確保、出願者数の増加に向け具体策を重点的に実施していただいたことで、一定の成果を上げることができたが、厳しい結果と思ふ。意見交換で、学費についての発言がありましたが、難しいでしょうがいろいろな制度等検討していただければと思ふ。</li> <li>・志願者確保を増加させることは大変だと思うが、附属の強みを生かし、メディアを活用して社会に広くアピールすることは必要。特に地元には有効である。</li> </ul>